



## 運動会 たくさんのご声援ありがとうございました 園長 笛木 哲

数年前、ある母親が「運動会練習が始まってから息子は、毎朝『幼稚園に行きたくない』というのです。鼓笛が嫌なんです」とおっしゃいました。彼は、楽器を演奏するのが苦手で、毎日の練習から逃げ出したかったのでしょうか。とっさに「申し訳ありません」と言うと、母親は「嫌という気持ちが生まれたのも、息子が成長したからです。だから息子には乗り越えて欲しいのです」とおっしゃいました。その後しばらくは、母親に手を引かれて、無理矢理に私に引き渡される日（時には涙顔）が続きました。そんなことを繰り返していた彼が、ある日を境に、できないなりに前向きに練習に参加するようになっていました。登園時にも曇った顔や泣き顔は見せません。母親の信じて待つ姿が、5歳なりの彼の我慢する気持ち、乗り越えようとする強い気持ちを育てたのです。最初に母親から「苦手な楽器から彼を外してください」と頼まれたら、私は何らかの手を打っていたかもしれません。そして、彼はもう少し楽を得られたはずですが、でも母親はそれをよしとせず、あえて頑張らせました。運動会当日、演奏を終えた彼の笑顔は最高に輝いていました。「大きな試練でしたが、もうすぐ小学校一年生になる息子の成長を噛み締めることのできた運動会でした」とおっしゃった母親の笑顔は、今も忘れられません。



“行事が子どもを育てる”と言いますが、それは運動会当日だけのことではありません。運動会に向かう練習や、運動会後の振り返りの日々の中でも多くの成長があります。

これまで担任の指示で動いていた子どもたちでしたが、リレー練習(3回目)の前、「(どうしたら1位になれるか)作戦会議をやろう」と声かけをする子が現れました。自分たちで話し合い、「バトンをしっかりと次の人に渡す」「地面を強く蹴る」と決めました。リレー練習後「(走るのが得意ではないけれど一生懸命最後まで走りきった子に対し)〇〇くんは、すごく速かった」「〇〇さんは、転んでもすぐに立ち上がって走ったのが格好良かったね」と友だちの良さを見つけて認める姿がありました。力を出し切れず、ふがない(ように見える)走りをしていたA君に、「あんなにゆっくり走って、リレーに勝ちたいの!勝ちたくないの!」と本気、本音で向かい合うBさん子がいました。翌日A君は、見違えるような走りを見せ、A君、Bさんさんのクラスは1位というドラマのような結末が待っていました。子どもが子どもを変える。そんな場面でした。



## 新しいお友だち

10月3日からちゅうりっぷ組に増村有泰（ゆうだい）さんが仲間入りしました。よろしく願いいたします。



## お知らせ

○9月から、新しい職員が加わりました。河崎舞紀先生（事務、保育）、町田幸子先生（ちゅうりっぷ組補助）、馬場直子先生（ひよこ組補助、毎週火曜日）の3名です。よろしく願いいたします。

○令和6年度入園をご希望の方は、入園願書（申請書）を次の日程で配布します。必要な方はお申し付けください。

・入園願書配布【1号】 10月16日（月）～10月31日（火）

・入園申請書配布【2・3号】10月 2日（月）～10月31日（火）

※1号認定をご希望の方は入園願書配布の際に11月1日（水）の面接時間をご案内します。

○保育棟増設のため、園庭の固定遊具（ディノワールドを除く）を撤去しました。年末に、ブランコ・鉄棒が新設されます。砂場はわんぱく山のふもとに移設しました。園庭にあった赤い屋根の小屋・倉庫などは、第二駐車場に仮置きします。

○保育棟増設のため、管理棟南側の建設予定地をフェンスで閉鎖しました。建設工事は子どもたちの安全を最優先して実施しますので、ご理解とご協力をお願いします。園庭南側駐車場（これまで職員の駐車場）は機材置き場等になりました。工事用車両などは、園児の活動場所である園庭に入ることはありません。職員は、第二駐車場に駐車します。



○9月26日に地鎮祭を行い、保育棟増設工事が始まりました。梁や柱などの骨組みが完成し、屋根の一番高い部分に棟木を取り付けた時（11月中旬頃）、園児を招待（保育の時間）し、上棟式（建前）を実施します（※私の思い出…昔は、近所で建前があると聞くと子どもはこぞって集まり、お祝いで屋根から投げられる餅などを取り合いました）。

## ひよこ組(就学前保育)で

教室のブドウ棚でブドウ狩りを楽しんだ子どもたち。紫、緑、藤と3色のブドウを摘み取りかごに入れてご満悦。一つしか取れなかった子、同じ色のブドウだけの子もいるのを見つけた担任が「〇〇君は一つしか取れなかったので、分けてあげてもいい？」と聞くと「うん」と答えた上に、もう一つブドウをあげようとする子がいました。担任が「紫しかない□□君と、○△君の緑のブドウをとりかえてあげてもいい？」と聞くと、ニコッと笑って大きく頷く子がいました。こんなに小さい子の「分け合い」「譲り合う姿」を見て、とても幸せに感じました。繰り返される戦争、ののしり合い互いに不信感をもつ国家。どうしてこんな簡単なことが大人に出来ないのでしょうか。奪い合えばなくなるものも、分け合えば足り、譲り合えば余ります。それぞれの便利や快適を、少しずつ削って融通し合うことで、ひよこ組のように幸せな時間が流れます。

